

## ITスキル標準をベースとした人事制度の構築(第6回 ITSS-DS 受診のアンケートご紹介)

ISRF 通信をお読みの皆さんは、ITSS-DS を受診されている会社の方がほとんどだと思います。今回、人事制度の構築事例としてご紹介しているソフト会社のパワーハウスも、昨年、一昨年とITSS-DS を受診しています。

パワーハウスは、社員グレードと IT スキル標準のレベルを一致させた資格制度を採ることで、社員のレベルを社会的に評価されるレベルと合致させようとしています。IT スキル標準のレベルと、自己の社員グレードが一致しない社員は、グレードの再検討が必要ということになります。

もちろん、ITSS-DS は自己診断ですから個人ごとに甘い・辛いといった差があり、それを直接、社員グレードに反映させることはできません。スキル・レベルを自己チェックし、自分のレベルを知ったうえで、「スキル・レベルを上げるために今後何に取り組むべきか」に関する目標を設定することになります。

同社は、今年も1月から2月にITSS-DS を実施しました。今回は受診についてアンケートをとりましたので、ソフト会社の社員(技術者)がITSS-DS をどのようにとらえているか、事例としてご紹介します。

今回のアンケート調査項目は次の四つです。

- 問1 ITSS-DS の結果は、あなたの考えるレベルと一致していますか
- 問2 (レベルが一致しないと答えた方に)その原因は何だと考えますか
- 問3 あなたのレベルを上げるために、今後どのようなことに取り組めますか
- 問4 ITSS-DS を受診して、気のついたことを何でもご記入ください

結果的に、21 人の方から回答がありました。

問1の「レベルの一致」についての回答は、次のようになっています。

- 一致している:17人(「ほぼ一致」を含む)
- 一致していない:4人(「少し違う」を含む)

80%の人が一致、またはほぼ一致という結果でした。不一致と答えた人も皆「少し違う」という回答でしたので、ITSS-DS のレベル診断は、かなり納得性の高いものであると思います。

一致していないと答えた4人は、その理由を次のように挙げています。

項目が当てはまらない:2人

- ・レベルというよりアプリ系もしくは業務系?に対する項目があったため(設計フェーズ、オブジェクト指向等)
- ・業務レベルをどのようにスキルに当てはめるかで、カテゴリーに入らない部分も出てくるため

判断基準があいまい:2人

- ・現在の業務についての設問は、業務が変わったばかりの場合は判断基準が難しい。自己判断の基準が難しい
- ・質問にあいまいな部分があるため、選択に困ることがある。5択のため、回答も微妙

このほか、“楽しい”返答もありましたのでご紹介します。

- ・ほぼ一致しているが、自分自身に対する希望としては、多少上の結果が出てほしかったのがというのが本音です
- ・レベルが一致しなかったのは、異文化・語学力、ハードウェアに対する知識です

(この項次回に続く)